

雲南市立病院における介護施設からの予約外 受診者の現状：後ろ向きコホート研究

りゅう 笠 よし 芳 のり 紀^{1,2)} おお 太 た 田 りゅう 龍 いち 一^{1,2)}
なが 永 せ 瀬 まさ 正 き 樹²⁾ はっ 服 とり 部 しゅう 修 ぞう 三²⁾

キーワード：特別養護老人ホーム，時間外受診，雲南市，ICPC-2

要 旨

【背景】本邦での在宅看取りが進むためには介護施設での看取りの充実が必要とされている。介護施設利用者の急激な状態悪化はひとつの阻害要因となるが、雲南市立病院での介護施設での状態悪化による受診の現状について明らかにされていない。

【方法】平成28年1月から12月までに雲南市内の特別養護老人ホームから当院を予約外受診した患者100名を対象とし、介護施設での状態悪化による受診の現状を調査した。来院時診断名はプライマリケア国際分類（ICPC-2）で分類した。

【結果】対象者は100名（男性30人，女性が70人）で平均年齢は89.4歳であった。カテゴリーでは呼吸器疾患が20%で最も多く、病名では腎盂腎炎が16%と最も多かった。季節による差はなく、施設からの直接受診による入院は入院患者全体の60%で診療所医師の紹介による受診と施設からの直接受診の間で入院率に差はなかった。

【結語】施設職員の利用者状態観察能力の向上が、施設利用者の急変の早期発見と早期治療につながると考えられた。

背 景

厚生労働省の方針のひとつとして地域住民が重度の要介護状態となってもできる限り住み慣れた地域で療養できるように在宅医療が推進されている¹⁾。現在70%前後の国民が在宅での最期を希望

しているが、その目標を達成できている地域は非常に限られている²⁾。昨今、国の施策によって特別養護老人ホームでの看取りの推進や介護依存度の高い高齢者の受け入れ増加を進めているが³⁾、特別養護老人ホームでの施設利用者の容態が急変する頻度が多くなり、介護職員のストレスが増加している⁴⁾。介護施設利用者の急激な容態悪化が施設看護師のストレスにつながり、介護施設での看取りの阻害要因となっている可能性も指摘され

Yoshinori RYU et al.

1) 雲南市立病院地域ケア科 2) 同 内科
連絡先：〒699-1221 雲南市大東町飯田96-1
雲南市立病院地域ケア科